

1年目で訪問看護師になって

済生会高岡訪問看護ステーション

黒田美緒 小坂成美



訪問看護に配属を希望した理由

地域に暮らす
療養者の理解

家族を含めた
看護の実践

限られた資源の
中での工夫した
看護の実践

アセスメント
力の向上

長期的視点に
立った看護



在宅で患者さんに寄り添った看護を実践したい



心境の変化

同行訪問

8月
～
10月

患者宅へ訪問するという
慣れないことに緊張

見守り訪問、時間差訪問を開始

11月
～
12月

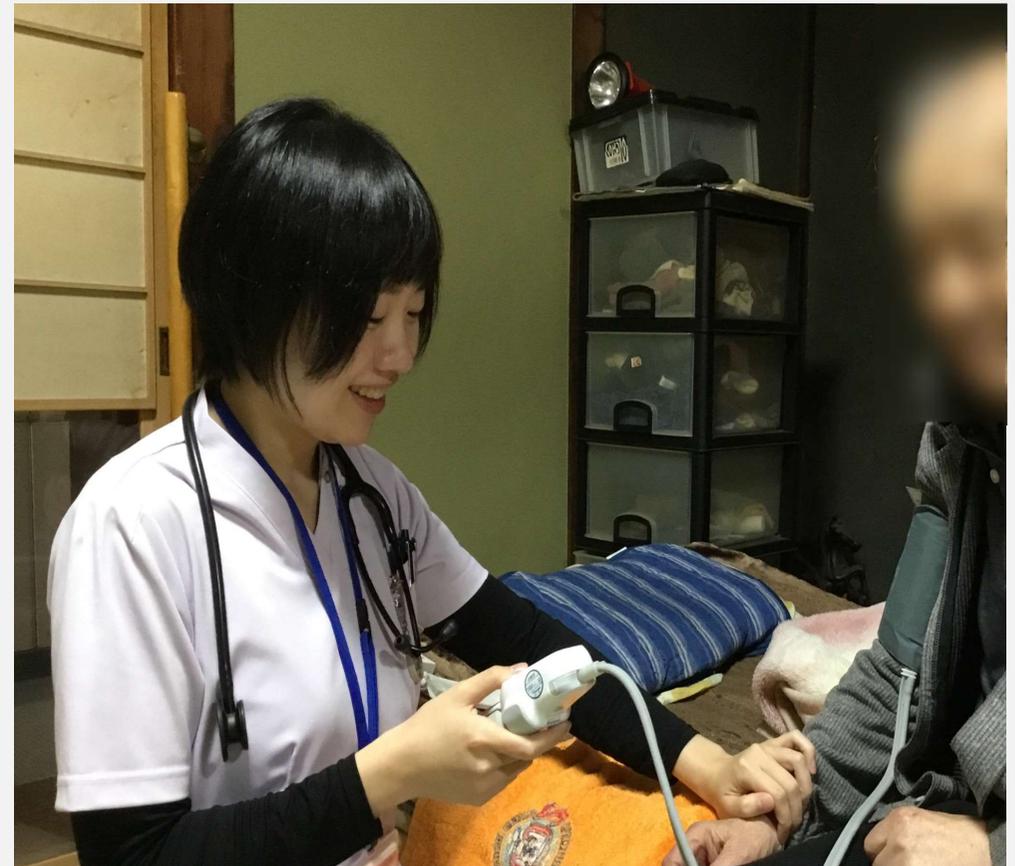
利用者からの質問への
対応や回答に悩む

単独訪問を開始
(2月末現在1人平均53.5件)

1月
～
2月

任せられているという自信半面
1人での急変対応が不安

訪問中の様子



不安と対応(当初)

不安

- 単独訪問
- 家族や多職種とのコミュニケーション
- 医療処置の技術の習得

対応

- 同行、見守り、時間差、単独と少しずつ段階を踏んで実践
- 先輩の声掛けの仕方から真似
- 経験を重ね、先輩から助言をもらう

勉強会（疑問への対応）



カテーテル固定方法



体幹保持困難な患者への車椅子移乗

実施する中での疑問点について勉強会を
新人が主体で企画→実施

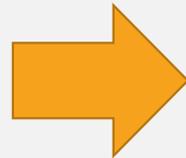


不安と理由(現在)

不安

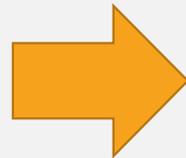
理由

▪ 急変時の対応



▪ 何度か急変対応へ同行しているが
症状も多様なため不安

▪ 看護の質の維持



▪ 利用者は新人が訪問することに対し
心配がないか不安

▪ アセスメント



▪ 多面的に状態を捉える必要があり
難しいため不安

職場からのサポート

- ・ 訪問後や移動中の車内にて1対1で質問できるため、じっくり教えていただけて嬉しかった
- ・ 単独訪問の時にも先輩が気にかけて下さり、些細なことも報告相談することができて安心感があった
- ・ 看護部での定期的な面談で悩みを表出しやすい環境が整っていた

現場では1人でも1人きりでやっているという感覚はなかった

学んだこと

- 地域で暮らす療養者の実際を知ることができた
- 在宅→病院→在宅での療養生活をイメージできた
- 本人の意思決定に向き合い正解のない看護を追求
- コスト意識、経済的な視点を獲得ができた

成長したこと

- ・ 便処置などの在宅で必要とされる看護技術をじっくり獲得できた
- ・ 訪問看護では電話がナースコール。利用者の状況を把握し、優先順位を判断できる力がついた

今後さらに成長したいこと

- ・ 訪問先でアセスメントして適切なケアを行うため、**アセスメント力**の向上を目指す
- ・ 技術や知識を身に付けて**緊急時対応**にも挑戦していきたい